

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793300159		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム大阪松(はな紅ユニット)		
所在地	大阪府大阪市西成区松1丁目8番32号		
自己評価作成日	平成27年3月8日	評価結果市町村受理日	平成27年5月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階		
訪問調査日	平成27年3月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

愛の家(メディカル・ケア・サービス株式会社)は全国に228か所(平成27年2月1日現在)のグループホームを展開させて頂いており、スケールメリットを活かしたノウハウの蓄積とそのフィードバックを行っています。愛の家大阪松では、入居者様のお気持ちに寄り添いながらご自分で持っている生活能力を発揮して頂けるように援助しています。ご入居者様が日々を穏やかに、自分らしい暮らしが出来るようにお手伝いさせて頂きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

メディカル・ケア・サービス株式会社は、全国的に事業展開されている。その中で、平成24年5月に地域住宅街の一角に4階建ての「愛の家・大阪松」が開設された。1階は小規模多機能サービス、2、3、4階はグループホーム(3ユニット)の2つ事業所が運営されている。福祉サービスにおける企業の歴史とメリットを集約し、この地域での取り組みを、2事業所の管理者は連携よろしく利用者及びその家族の意向を最優先に考慮し、職員一丸となって介護支援をされている。ホームビジョンとして「ご入居様中心に地域に根差したグループホームを目指す」を掲げ、日夜各利用者の自立支援に向けて、職員間のチームワークも良く安全・安心、穏やかな日常生活支援の実践が行われている。グループホーム利用率は高く、努力と信頼の結果が伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが職員全体に周知する具体的な取り組みが無い。	理念の「ご入居様中心に地域に根差したグループホームを目指す」を明文化し、自立支援・実践に繋げる努力をしている。会議や朝礼時に管理者は説明している。入職して日の浅い職員は共有・実践の努力中である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に1回、地域のふれあい喫茶に参加。毎月の廃品回収のお手伝いをさせて頂いている。	地域の自治会には加入し回覧板もまわってきている。地域での行事は掲示板などを参考に参加し、廃品回収にも協力している。中でも地域での「梅南座」の大衆演劇を楽しみに参加する人もいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年の12月、今年の1月に認知症カフェを開いたが参加者が集まらず、一旦休止して次善策を検討中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、開催している。さまざまな報告を行っている。	奇数月、年6回小規模多機能と合同で開催され議事録も保管されている。議事内容は施設側の状況報告が主となっている。単身者の方もおられ、利用者やその家族、施設外からの参加が少ない。	会議参加メンバー構成を考慮・拡大し、協議内容の充実が望まれる。認知症の勉強、福祉関連の近況を話題提供し、内外の情報交換の場とし、サービス向上に繋げることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大阪市介護保険課と密ではないが、必要に応じて相談させて頂いている。	施設行事などに関しては案内状を出し、困りごとが生じた場合は相談をしている。行政との情報交換の必要性を認識し、包括支援センターへは営業を兼ね出向いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	メディカル・ケア・サービスとしてのマニュアルがあり、大阪松としても身体拘束の勉強会を行っています。	身体拘束をしないケアは全職員理解している。研修も企画実施されている。ただ単独外出者の危険性や外部からの侵入者防止の観点から夜間玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会を行っており、虐待防止と虐待が起きない職場作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	成年後見制度の研修を大阪松にご入居されている方の後見人の方にお問い合わせする予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は入居の際にご家族様・ご本人様と読み合わせをさせて頂いており、不明な点はその都度ご説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様アンケートを年1回実施しています。アンケートの結果はご家族様にお伝えさせて頂き、施設全体で改善に取り組んでいます。	年1回のアンケート調査、面会時の情報収集、個別ケア時に傾聴する等、機会を通して意見や要望の把握に努めている。職員間で情報は共有し、改善すべきは対処し、該当者に報告するなど運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個々の職員の意見を反映できるように毎月会議を行っています。資格取得や研修会の参加等、向上心の持てる職場作りを行っている。	全体会議として月初めは研修会、月の後半は業務関係の会議を開催している。中には経験の浅い職員も多く、素直に意見交換がされている。管理者・職員共に向上心は強く介護職としての自覚と喜びを感じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持てるように勤務状況や個人の能力を評価し、給与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体の研修とは別に週に1回研修会を開いている。職員の希望に応じた研修を実施して各個人の能力向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大阪市グループホームネットワークに入会し、情報交換させて頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居のアセスメントの段階で利用者様のご希望や不安なことをお伺いし、利用者様の想いを理解できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に生活歴やご本人様のご希望を伺いながら今後のご家族様との協力やご本人様への介護のお話をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今何が必要なのかをご本人様・ご家族様にお話を伺い、適切なサービスを提供できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様に出来る事をご自身で行って頂く介護を提供させて頂き、その場面でお声かけ等に注意を払いながら関係作りに留意しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とはケアプランの説明を通して、ご家族様にも支援として関わって頂きながら一方的な関係にならない様に気を付けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの事柄については、会話の中でそのお話をし、思い出して頂けるように心がけています。	利用者は大阪市内・区域以外からの人も多く、入居後は施設近隣で所要・買い物・受診などを済ませている。馴染みの人・場はこれから構築されるように支援している。中には月1回、入居前からの継続でお寺に行く人もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでは利用者様間のコミュニケーションを取って頂けるように職員が関わりのきっかけになるような対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後に医療行為の為に退去となった方について、定期的にお見舞いに伺うなどの対応をさせて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望、意向を把握する為、一人一人とのコミュニケーションを大切にしています。ご利用者様を中心にご家族様・スタッフと話し合いながら援助の方法を検討しています。	利用者本位をモットーに、家族から生活歴の聴取、散歩の機会、入浴介助の折などを利用し、思いや意向の把握に努めている。声掛けや利用者の言動に関心をもち、寄り添いながらのコミュニケーションに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでのサービス利用などをご家族様にも提供頂きながら把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様のペース・リズムを大事にして、現状の有する能力に沿った援助に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画はケアマネジャー・計画作成担当者がご本人様・ご家族様の意見を聞きながらスタッフも意見を出し、現状に即したプラン作りを心掛けています。	利用者・家族の意見を聴取し、職員はモニタリングやカンファレンスを持ち、ケアマネジャーを中心に現状に即した介護計画は作成されている。短気は3か月、長期は6か月とし、関係者には説明され、それを実践に繋げて利用者のQOL向上に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で気づきがあれば個別のケアシートに記入し、朝礼で申し送りをしています。必要に応じて介護計画を見直ししております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援の提案を見つけるため、ケアカンファレンス・全体会議を通して出来るだけ多くの意見を頂けるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での生活の為、買い物などで出来るだけ利用者様に地域に出掛けて頂いてます。歯科・眼科等は地域の医院にかかって頂くなどをしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医の受診(往診)。その他の場面では必要に応じて主治医と連絡を取っております。主治医とは定期的に利用者様のケアについて助言を頂いております。	利用者は月2回の割合で医療連携医の日常健康管理で往診を受けている。一人のみ従来のかかりつけ医を受診している。内科以外の眼科・皮膚科・整形などは紹介状をもとに近隣医にスタッフが付き添い受診、医療関連は安定している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝礼の申し送り時に看護師も参加しており、情報の共有を行っています。看護師・往診医とは24時間の連絡体制を取っており、入居者が安心して暮らせるように支援しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は定期的に面会に伺い、入居者様とのコミュニケーションに努めています。その際、病院との情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今のところ想定される入居者様はおられませんが、重度化、終末期となった場合には入居者様を中心にご家族様・主治医・施設看護師・ケアマネジャー・スタッフと話し合い、その結果を踏まえてその後の対応を検討させていただきます。	入居時、初期から説明の上、意向は聞いている。当施設での体験はないが利用者にとって「終の棲家」であることを念頭に「重度化や終末期の支援」について文章化・書類はある。経過中、段階を追って説明と同意を得ながら、実践するつもりで研修や付帯課題につき準備中である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社からのマニュアルがあり、急変・事故が起きた時の対応・連絡手順はスタッフに伝え対応しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を実施し、職員の防災意識を向上するように努めています。	法的基準は遵守し年2回の消防訓練は実施している。耐震強化建築・IHシステム・火災時の通報システム・備蓄の用意は良好であるが他の災害に関しては考案中の様子である。職員は夜間想定に関し不安を持っている。	有事を想定してのミニ訓練が職員の不安軽減のためにも必要と考える。一方、運営推進会議などにも話題提供しながら、地域の協力支援を構築することを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や誇りを考慮した声掛けを心掛けています。	人生の先輩として、人格の尊厳を各職員は認識し、接する時には声掛けなどに細心の注意を払っている。時に不都合のある場合はお互いに注意をするようにしている。職員間の人間関係は良好である。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様に日頃からご自身の考えを伺いながらご自分で考えて頂くような促しとかかわり方に気を付けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを大切にして職員の都合に利用者様を合わせるようなことが無い様にスタッフ一同支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれに利用者様が意識を持っていただけるように、更衣の際などは複数の提案をするなどしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来ることはご自分でして頂けるように、見守りを行いながら、準備や片づけをして頂いています。	献立は本社の方で専門家が作成、事業所の調理師が時にはアレンジしながら買い出し、ユニットのキッチンで調理し提供されている。利用者も後片付けなどに参加し、職員同席で食事時間を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量の把握が出来るようにその都度、チェック表に記入しています。水分量については朝礼時に全ユニットから報告をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前食後のうがいや口腔ケアを行っていただけるようにお声掛け、介助を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックから個人個人の排泄リズムの把握につとめています。	2階はリハビリパンツの人が多。3, 4階は布パンツ使用者が多い。排泄チェック、その人のリズムを考慮しながらトイレへ誘導し、自立に向けての支援をしている。入居前よりレベルアップした人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日の中で体を動かして頂ける時間を持つように支援しています。排便のチェックを行い、把握できるように努めています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日々、ご本人様に確認して入浴して頂いております。自己決定が難しい方や介助が必要な方には定期的に入浴して、清潔の保持に努めています。	週2回を基本とし要望にも応えるようにしている。拒否の人はタイミングを見て清拭、足浴に変え実施している。あくまでも自尊心は尊重し対応している。また、入浴剤を使用し○温泉へと呼びかけたり菖蒲湯、ゆず湯なども企画し楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝の時間はお一人おひとり違うので、その方のペースに合わせてお声掛けしております。夜間に安眠できるように日中が活動的になるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬の把握に努めています。薬の変更があった場合には、作用・副作用に留意した様子観察を行い、担当医に報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の楽しみを持って頂けるようにご家族様やご本人様の要望を伺いながら対応しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなどで外気に触れて頂いております。個別の対応としてはご家族様にご協力頂きながら実施しています。	冬季は外出頻度は少ないが、気候の良い時は近隣公園や散歩に出かけることはある。個別対応は家族の協力のもと実施している。外気に触れ気分転換の必要性を職員は認識している。今年は造幣局の通り抜けを楽しみしながら企画している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは金庫でお預かりさせて頂いています。お金を持っていないと不安な方については小銭を持って頂き安心して過ごせるようにして頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状や暑中見舞いなど、ご自分で書いて頂ける方には書いて頂いています。電話のご希望が有ればお手伝いさせて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は利用者様がくつろいで頂けるように飾りなどの工夫をしております。テーブルの配置なども模様替えなどで変更し、利用者様が穏やかに過ごして頂けるようにしております。	共用空間(玄関、廊下、キッチン、浴室、トイレ、居間等)は適切な広さで整理・整頓・清掃も行き届き不快な臭いや騒音もなく、快適に居心地よさそうである。3ユニット共に同じ構造である。廊下には季節感を取り入れた掲示物もあり各ユニット共にアットホームな雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士が楽しく過ごせたり、一人でのんびりしたい方など、それぞれのニーズや個性に合わせた空間作りを心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使ってこられた家具などを持ち込んで頂きながら安心して暮らせる空間作りをしています。	居室ドアには個性的な表札があり、入居前に使用していた家具のテレビ、テーブルおよび椅子、ベッドなどが持ち込まれている。備え付きのタンスは支柱を設置し、耐震考慮の態勢が伺え、安全安心の居室環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活を援助するためにカレンダーの設置やトイレの表示などに工夫をしています。		